


# Tasty

ABC HOUSING STYLE BOOK



## 住まいを素敵にメイクアップ!

服装や髪型がキマらないと、気分が乗ってこないように。  
住まいも自分に合ったものじゃないと、愛着が湧いてこないもの。  
ABCハウジングでは、さまざまなモデルホームを用意していますからきっと、  
あなたのオンリーワンが見つかるはず。  
さあ、住まいにも素敵なメイクを!

# Living room



感覚的な広さを考慮して  
開放感あふれるスペースを手に入れる。

リビングでは開放感をなにより大切にしたいもの。そこで、留意しておきたいのが、実際の広さと感覚的な広さは同じではないということ。たとえば面積が同じであれば、間口を広く取っている方がより広く感じられます。また、天井が低いと圧迫感を受けて、狭苦しい感じを受けます。吹き抜けや斜め天井を設けるのも開放感を手に入れるひとつの方法ですが、天井の高さが十分に取れない場合は、床座の生活スタイルに切り換えて視線を低くするといった工夫が考えられます。



家族の会話を弾ませる、くつろぎのスペース。



スッキリとしたイメージのためには  
収納スペースにも気を配って。

意外なことにリビングには、こまごまとした雑貨類  
が集まりがちなものです。それらを収納するた  
めに家具を置くのもいいのですが、リビングの開放  
感をそこなってしまう結果を招くことがあります。  
そこで、あらかじめ収納スペースを造り付けにし  
ておくことをおすすめします。たとえば、壁面にク  
ローゼットを設けておくと、部屋全体がスッキリ、広々  
としたイメージになります。また、ソファの下やテー  
ブルの下などのデッドスペースを有効に活用し  
て収納スペースにするのもいいでしょう。

気がつけば家族が集まってくる、団らんエリア。



ワガママを通してみたい、ミセスのお城。



機能や価格、趣味で比較して  
自分に合ったキッチン設備を見つける。

キッチン設備の代表的なタイプといえば「システムキッチン」。扉や天板、パーツなども多彩な種類が用意されていて、その組み合わせで自分の趣味に合ったキッチンが実現できます。つぎに、流し台・ガス台・調理台を並べた「セクショナルキッチン」。低価格な反面、隙間の掃除が面倒という点も。さらに、大量生産によってコストを下げつつも、機能的にはシステムキッチンと同程度という「簡易施工型キッチン」。それぞれの機能や価格、外見などを比べて、好みのタイプを選びましょう。



# Dining room



美味しいひとときを演出する、味わいの空間。



快適なダイニングづくりは  
キッチンやリビングとの  
関係に気を配って。

ダイニングは食事のためのスペースです。ミセスにとって食事の準備は毎日のことなので、キッチンとダイニングとの行き来がスムーズにできないと、イライラはつるばかりです。かといって、ダイニングからキッチンの様子が丸見えというのも、食事や団らんの雰囲気が増えなくなってしまいます。キッチンやリビングへスムーズに移動できる動線設計、調理の様子や音、匂いなどを上手にシャットアウトする工夫、この2つを両立させることが、使い勝手のいいダイニングを実現する近道かも知れません。

食事から会話まで、多目的に使えるスペース。



## 「和」「洋」、2つのこだわりでコミュニケーションをスムーズにする。

ダイニングでのコミュニケーションを、より円滑にするためのアイテムとして、畳とテーブルが挙げられます。たとえばダイニングの一角に畳を敷いてみると、リビングと一体化したようなお茶の間空間が出現。この場合、畳を敷く部分の床の高さを20~30cmに設定しておく、畳からの立ち上がり（上がり）がラク。また、ダイニングの広さは、大きなテーブルを置ける程度のスペースは確保しておきたいもの。大きなテーブルを用意しておく、多人数にも対応できるうえ、心理的なゆとりを感じることができます。



家族を柔らかく包み込む、プライベート・ルーム。



和室にするか、洋室にするか？  
使用する目的に合わせて選びましょう。

寝室の目的は眠ることにあるのはもちろんですが、それ以外の目的で使用されることもしばしば。和室の場合だと、布団を畳んで押入にしまうことで空間が生まれます。そのスペースを活かして、アイロンをかけた洗濯物をたたんだり、家事の場として利用することができます。ほかにも着替えやお化粧、衣類の収納場所など、さまざまな用途で使用されます。ベッドを置いてしまうと他の目的で使用することは難しくなりますが、朝夕の布団の上げ下ろし作業から解放されるというメリットも。





多彩な用途に活躍する、和のリビング。



使用する目的に応じて  
部屋の造りや広さに気を配る。

ときに和室は、くつろぎの間となり、客間にもなる。またあるときは、趣味のためのスペースとして利用することも。その使い勝手のよさからリビングに隣接して設けられる例が多く見られます。和室らしい雰囲気を出すには、床の間やふすま、障子、欄間などが挙げられますが、スペースにゆとりがない場合は簡略化してもいいでしょう。また、寝室として使用する場合は、広さは6~8畳程度を見ておけば十分ですが、それ以外にも押入やタンス置き場などのスペースは確保しておきたいものです。



疲れを解きほぐし活力を育む、リフレッシュ空間。



ココロとからだに心地よい広さと明るさを確保しましょう。

広い浴室は気持ちのいいものですが、広すぎるのも考えものです。浴槽に入っているときはいいのですが、洗い場に出たとたんに寒くて体を洗うところではない、といったことにもなります。浴室の広さとしては、2畳以上あれば十分。これに自然光を採り入れる窓があれば、開放的な雰囲気が得られます。窓はなるべく低い位置に設け、不透明なガラスやブラインドで視線を遮る工夫を施しましょう。また、洗面スペースの広さは、脱衣所や洗濯機置き場を兼ねることを考えて、少なくとも3畳以上は確保したいものです。

家族にも、お客さまにも快適に使える設計を心がける。

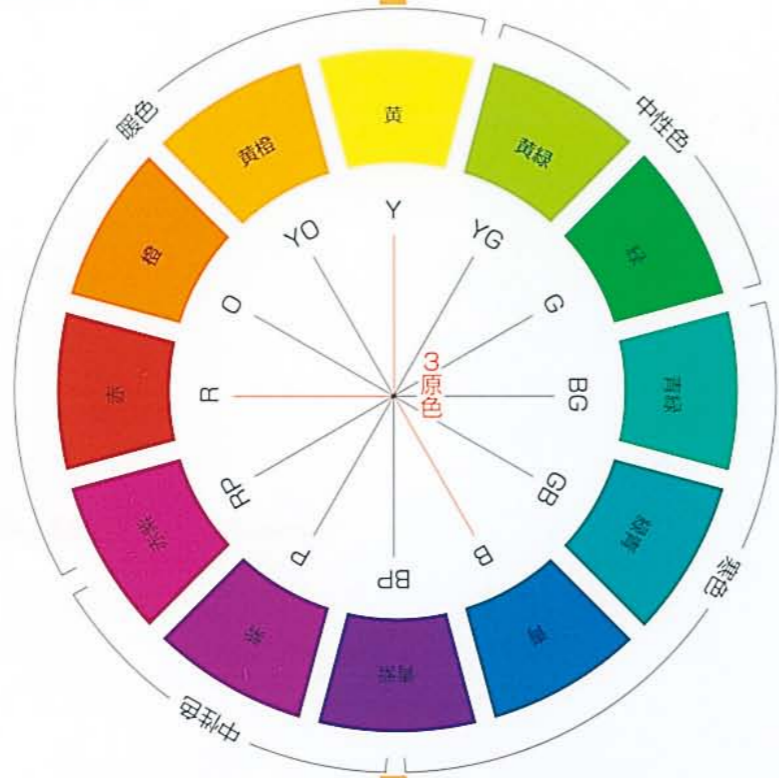
玄関は家族やお客さまを迎え入れる場所。だから、機能性とともな暖かな雰囲気も大切にしたいもの。機能面ではシューズロッカーや傘立て、さらにゴルフバッグや道具などを収納するスペースがあると重宝。また扉の脇にガラスを入れたり、吹き抜けを設けたりして自然光を採り入れると、明るい雰囲気が得られます。廊下や階段は、将来、手すりを付けたり、車椅子で利用することを見越して、広めにとっておくのがオススメ。階段の勾配に関しても、先のことを考えて、ゆるやかに設計しておきたいものです。



お客さまを暖かくお迎えする、住まいの顔。

# 知っておきたい「色」のいろいろ。

住まいの「色」が与える心理的な影響って、けっこう大きいもの。自分の好きな色を使えばいいようなものですが色づかいによっては、心地よくも不快にもなってしまいます。それぞれの色の性格や組合せの効果を知っておくともっと素敵にカラーコーディネートが楽しめます。

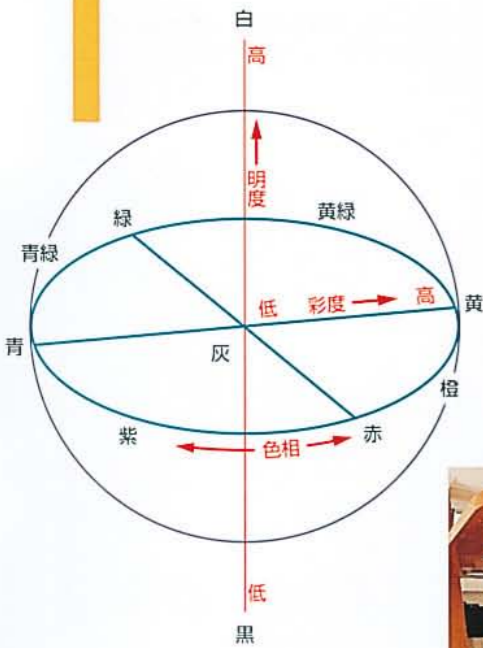


## カラーコーディネートの第一歩は色のモノサシを理解することから。

音を「音色」「音の高さ」「強弱」で表すように、色も「色相」「明度」「彩度」の3つのモノサシで計ることができます。色相とは赤、青、黄など、色合いの違いのこと。明度とは色の明るさを表し、白がもっとも高く、黒がもっとも低い明度を示します。彩度は色の鮮やかさの度合のことで、赤、青、黄などに近い鮮やかな色ほど彩度が高く、白や黒に近い色ほど彩度は低くなります。各色相の中でもっとも彩度の高い色を「純色」といいます。また、黒、灰、白は「無彩色」と呼ばれ、色相、彩度がなく、明度のみで表します。

## 色の関係をしっかり理解してひと味ちがうカラーコーディネートを。

色相を環にして並べたものをカラーサークル(色相環)と呼びます。配色プランを考える際、このカラーサークルの見方を覚えておくと便利。同じ色相で濃淡の異なる色が「同系色」。隣り合った位置にある色が「類似色」。たとえば緑の類似色は黄緑や青緑となります。ちょうど正面にある色を「補色」。赤を例にとると、補色は青緑になります。また、補色を中心に広がる色を「対比色」といいます。カラーコーディネートを考えるうえで、大切なのが補色と類似色。これを機会に、大まかにでも覚えておきましょう。



## 色の感じ方に目を向けて心地よい色彩空間を描いてみる。

人によって好みの色が違うことは当然のことですが、それとは別に、誰もが共通して受ける色の心理的效果があるといわれています。カラーサークルで示される12色は、そのイメージによって「暖色」「寒色」「中性色」に分けられます。暖色は、その名の通り暖かさを感じさせる色のことで、情熱的、動的、陽気なイメージをもちます。寒色は、クールな印象を与える色で、思慮的、静的、冷静なイメージをもちます。また、中性色とは、暖色、寒色の中間にあって、寒暖のイメージとは結びつきにくい色のことをいいます。



## 暖色と寒色を使いこなす① 気分を高める色、落ち着かせる色。

暖色や寒色は寒暖のイメージ以外にも、さまざまな心理的效果をもつことが認められています。たとえば、暖色系では気分が高揚し、寒色系では落ち着いた気持ちになれるといえます。また、彩度が低くなると興奮も沈静も弱まるともいわれています。たとえば、勉強部屋の配色を考える際、暖色なら彩度を低く、寒色なら彩度を低くしすぎないように心がけるといいでしょう。また、暖色系の部屋では時間の過ぎるのが遅く感じられ、寒色系では早く感じられることから、ゆったりと時間の流れるリビングを望むなら暖色系がお勧めです。



## 色が同じでも、条件が違えばその見え方に違いが現れる。

同じ色を使っている場合、その面積が広いと、狭い場合に比べて、より明るく鮮やかに感じるといえます。つまり、天井や壁、床など、広い部分の色を決める際には、実際には明度や彩度が高くなることを考慮しておく必要があります。また、照明の度合や種類によっても、色の見え方に違いが出てきます。室外の明るさのもとでは、室内に比べて明度も彩度も高く感じられるといえます。さらに、モデルホームやショップでの照明と自宅の照明とでは、明るさが違ってくるといことも気を配っておきましょう。



## 暖色と寒色を使いこなす② 広さを感じる色、高さを感じる色。

暖色と寒色を並べた場合、暖色の方が近くに見えるため進出色と呼び、寒色の方は遠くに見えるため後退色と呼びます。また、明度や彩度の高い色は進出して見え、明度、彩度の低い色は後退して見えるといえます。このことを応用して、天井を高く印象づけたい場合は、壁の色より薄い同系色を用いるといいでしょう。部屋を広く見せたい場合は、天井に白を使うことをおすすめしますが、部屋全体が白一色というのも落ち着いた感じがしません。そこで、壁にはベージュやクリーム色などを使ってみては。

## 色の連想を効果的に利用してインテリアの配色プランを考える。

赤い色を見てトマトや炎を思い浮かべたり、青い色を見て海や空をイメージすることを、色の連想といえます。経験や知識によって異なりますが、多くの人に共通する連想も存在するのです。さらに、赤→炎→情熱といったふうイメージを広げていくことで、インテリアのカラーコーディネートにも役立てることができます。たとえば、白や青といった色からは清潔なイメージを想起する人が多いため、サニタリーに用いるのもいいでしょう。このように色によって部屋の使い方を考えることができるのです。



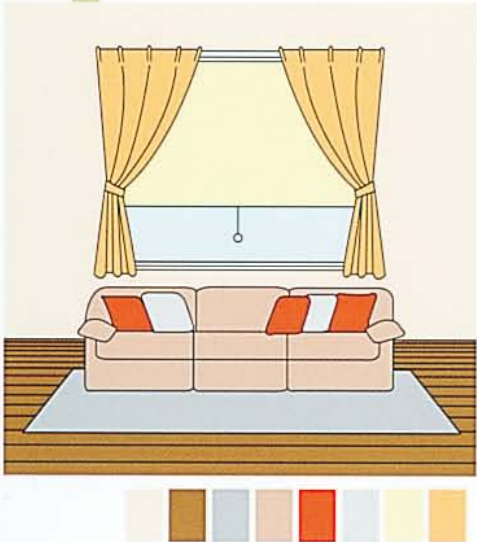


## 住まいをあなた色に染め上げて。

お部屋の色づかいを考えるのは楽しいことですが、実際の住まいづくりを前にすると難しいもの。いったい何から決めていったらいいのか、迷ってしまいます。このページでは、カラーコーディネイトを考える際に役に立つテクニックやコツをいくつかご紹介しましょう。

### お部屋の色づかいはまず基本の色から考えましょう。

お部屋の色づかいを考える場合、どこから手をつけるのかというのはなかなか難しいモンダイ。まずは、基本となる色を決めて、次に組み合わせる色を決めていくといいでしょう。この場合の基本色は、お気に入りの色でもOKですし、暖色系でまとめるつもりなら、暖色から1色を選ぶという手もあります。基本色をどこにどのくらい使うのかは大まかに把握しておきましょう。組み合わせる色は、ニュートラルカラー(黒・グレー・白・ベージュ・茶など)以外は、3色以内にすることがオススメです。



### どこにどの色を使うのか面積の広い順に決めましょう。

基本色と組み合わせる色を決めた後は、住まいのどの部分にどの色を配置するかを考えます。この場合、壁→床・天井→家具→カーテン→小物類といったふうに、面積の広い部分から決めるようにしましょう。同じ色でも使う場所や量によってイメージは違ってくるもの。また、壁など耐用年数の長い部分の色を決める際は、好みが変わったからといってカンタンに色を変えられない、ということに留意しておく必要があります。流行の色や柄についても同様に考えておいたほうがいいでしょう。



### 3原色をポイントに使ってお部屋に軽やかなアクセントを。

赤、青、黄の3原色を使うと、お部屋に軽やかなイメージが生まれます。ただし、インパクトのある色なので、上手に使いこなさないと品がなくなってしまうことも。床や壁、天井などは淡い色合いでまとめて、3原色をポイント的に使用してみるのも効果的。たとえば、床・壁・天井にニュートラルカラーを使って、椅子やクッションに3原色を用いてみると、お部屋に軽快なアクセントが生まれます。この場合、3原色の分量が多くなりすぎると、かえって調和が乱れてしまうのでご注意ください。



### ニュートラルカラーを利用してシックで落ち着いたお部屋に。

白、黒、グレー、茶、ベージュなど、ニュートラルカラーと呼ばれる色だけを用いてお部屋を構成すると、シックで落ち着いた雰囲気になります。この場合、気をつけたいのが、基本的な色のみを使っていると単調で重たい感じになってしまうこと。そこで、小物類にはアクセントとして色味のあるものを使うようにするのがカンジン。物の輪郭をクッキリと出せるため、背景としては格好の配色となります。ただし、狭いお部屋でコントラストの強い白と黒を使うと、圧迫感を与えてしまうことも。



### コントラストを取り入れてメリハリのきいた雰囲気。

「補色」については、19ページでも触れたように、カラーサークル上で、ある色とその正面に位置する色のこと。たとえば、赤と青緑、黄と青紫など。コントラストがはっきりしているため、上手に取り入れるとメリハリのきいたアクティブな印象が得られます。そのためのコツとしては、まずベースの色とサポートの色のバランスをハッキリさせること。9:1とか、8:2くらいの比率にしておくのがベターです。比率を均等に近い量にすると、不快感を生じさせることもありますので、くれぐれもご用心。



### 類似色のワザを使いこなして上品なイメージを手に入れる。

カラーサークルで隣り合った色のことを「類似色」と呼びます(P19参照)。この類似色を使うテクニックのいいところは、手堅く上品なイメージに仕上げられること。まずベースになる色を決めて、その色に隣り合った色を2~3色程度でまとめます。2~3色という少ない気もしますが、微妙な色合いの違いを考えると、使える色は無数にあるといえます。たとえば、天井や壁などは白やベージュで抑え、ベッドカバーやカーテン、雑貨類をお気に入りのカラーの類似色でまとめてみるのもいいかも。

### 同系色の妙を活かしてすっきり広々な空間づくりを。

濃淡の異なる同系色、モノトーンでお部屋をまとめると、全体にすっきりと見え、広々としたイメージを得ることができます。イメージの統一が図りやすいため、失敗の少ない手堅いコーディネートといえます。ただ、同系色の濃淡だけで構成すると単調な雰囲気になりがち。そこで、布や木、ガラスなど、インテリアの素材に変化をもたせたり、小物類に色味を加えたりするのもいいでしょう。また、暖色系の同系色でまとめると柔らかく暖か、寒色系でまとめると、爽やかに涼しげな感じになります。

